

第53回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和5年2月24日（金） 13:00-14:30

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、常田座長代理、関委員、永田委員、永原委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

河西局長、坂口審議官、渡邊参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

上田課長

池田室長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所（ISAS）

國中所長

藤本副所長

4. 議事要旨

(1) 宇宙科学・探査の意義・価値及び今後の方向性・将来像について

資料1を用いて、事務局から宇宙科学・探査の意義・価値及び今後の方向性・将来像についての説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等）

○ESA、NASAなどの国際動向をよく踏まえることが重要。ISASのトップがESA、NASAと意見交換を行いながら、ボトムアップの審査に国際動向も踏まえた相互調整を行うことが必要ではないか。

○メーカーが難しいミッションを行いにくくなっている。メーカーのリスクへの対策を行っていく必要があるのではないか。

○サンプル分析を担う中核的研究者の育成のみではなく、大型ミッションを担っていけるリーダーが必要ではないか。

○継続的な宇宙科学・探査ミッションによる人材育成と、大型国際計画への参画とのバランスを取っていく必要があるのではないか。

○超小型衛星の研究開発などでは、科研費等の様々な予算を用いた成果がうまく使われている。

○世界中で未開拓の分野に日本が取り組んだ結果として、小惑星サンプルリターンが日本の強みとなった。未開拓の分野として、長寿命化、高知能化を盛り込んだ超小型機による深宇宙探査が日本の強みとなるのではないか。

- (2) 次期宇宙基本計画の策定に向けた主な論点について
資料2を用いて、事務局から次期宇宙基本計画の策定に向けた宇宙科学・探査に関する横断的な論点についての説明があった。

委員から、工程表について以下のような意見があった。
(○：意見等)

- 議題1の「宇宙科学・探査の意義・価値及び今後の方向性・将来像について」の報告書をもとに、次期宇宙基本計画の策定を進めてもらいたい。
 - 国際的な動向と日本の取り組む方向性を分けて、次期宇宙基本計画に記載していくのがよいのではないか。
 - 現行の宇宙基本計画における「今後、10年間では、戦略的に実施する中型計画に基づき3機、公募型小型計画に基づき2年に1回のペースで5機打上げを目指す」という記載につき、より柔軟な対応が必要ではないか。
- (3) その他（宇宙科学関係予算）
参考資料1、2を用いて、文部科学省から宇宙科学関係予算についての説明があった。

以 上